

趣意書

私たち早稲田大学国際学生友好会は、今年で70周年目を迎える早稲田大学公認の学生団体です。私たちは様々な活動を通して各国の留学生が留学生生活を豊かなものとし、日本に留学してきた目的を達成できるよう協力することを目標としています。新型コロナウイルス感染症による影響で国際的な交流が難しい中でも、オンラインツールなどを用いて積極的に留学生と交流を継続して行ってきました。そして留学生と共に国際感覚と国際知識を養い、互いに理解しようと日々活動をしています。

その活動の一つとして、毎年12月に「留学生による日本語スピーチコンテスト」を開催しております。年々、世界各国から日本に関心を持ち、日本で勉学を志す留学生の数は増加しています。しかしながら、留学生の母国の実情や文化、また彼らが日本で何を感じどのように考えているか、といったことを直に聞き、知る機会はまだないというのが現状です。そうした現状の中で、私たちは微力ながらもこのスピーチコンテストを通じて、異文化の中で奮闘する留学生の声を発信し、私たち日本人がその声を直に受け取ることができる一つの機会を作りたいと考えております。留学生の声を直に聞くことは、彼ら自身についてだけでなく彼らの母国の文化や価値観を知るきっかけとなることでしょう。また、彼らと直接対話することはより深い国際交流へと繋がると考え、コンテスト終了後に審査員の方との交流会を設けております。このような取り組みを通じて、より多くの方が新たな価値観に触れるきっかけとなることを願っています。

新型コロナウイルス感染症が流行した2021年度は、当会においても国際交流の機会が大きく失われてしまいました。しかしそのような状況の中でも、様々な方々のご協力のもと、活動をオンラインと対面のハイブリッドで実施することで、56回目のスピーチコンテストを無事に開催することができました。そして一昨年度と昨年度は、共に対面での活動、有観客での開催を実現できました。さらに、コロナ禍で大会の配信を導入したことで、世代や国籍を超えてより多くの観客の方々と繋がることが可能になり、このスピーチコンテストに新たな魅力が生まれたと感じております。そのため、今年度も有観客開催、配信の実施を継続していく所存です。

このたび、第59回のスピーチコンテストを迎えるにあたり、これまでにご協力を賜った各位のご恩情と、ここに至るまでの先輩方のご尽力とをかみしめながら、会員一同が丸となってスピーチコンテストの運営にあたる所存であります。また同時に、このスピーチコンテストが留学生と日本人の相互理解を促し、国際交流の一層の発展への一助となれば幸いです。皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

早稲田大学国際学生友好会
第68代幹事長 加藤 颯大
スピーチコンテスト幹事 向井 悠人